



神輿圖識補

四

ル 2
105
44





坤輿圖識補卷四

本編中所收人物略傳 美作 箕作寛省吾 選

アレキサンデル 亞歷山多兒 ゴロテ 卧盧的 漢譯云 馬則多尼亞侯曰 ヒ
ハ 區ノ男ナリ紀元前三百五十六年 ヘル ラ地名ニ生ル其
幼ナル 幼ナル寸氣宇弘恢幼弱ノ者ニ似ズ ヒ 且 ヒ 嘗テ大
ニ 敵ニ克ツ帝之ヲ聽キ其友ニ向テ泣テ曰久父王我
ニ 功名ノ地ヲ遺サズ是ヲ以テ泣ト云ヘリ父王亞理
ス 斯多傳ヲ載ス ト 其小ヲメ之ガ傳タラシム鞠育訓導并ニ其



カヲ竭ス、齡僅ニ二十歳、馬則多尼亞ノ王位ヲ嗣ク、帝嘗テ他ニ適ク、厄勒西亞部内、テラシ山、イルレイリ山、二國名帝ノ在ラザルヲ候ヒ、馬則多泥亞ニ及ク、帝急ニ駕ヲ回シテ、之ヲ征ス、此ヲ帝ノ初戦トス、アテニ一等國人復タ降ル、テバ子ルス、名國獨リ拒テ降ラズ、帝怒リ攻テ、其都ヲ陷レ、人民ヲ屠戮シテ殆ド盡ク、獨リヒンダ^ス、名人一族、特恩ヲ以テ、免ル、一ヲ得タリ、是ニ於テ、厄勒西亞皆帝ニ屬ス、百爾西亞大ニ兵ヲ發メ、厄勒西亞ヲ伐ツ、國人皆帝ノ防禦ヲ得テ、干戈ノ旣ヲ弭メント請フ、獨リシノ一^地、名人、シラゲノス、請フ所

ナシ、シラゲノ一^地、名人、此土ノ碩學、郭門ノ外ニ家シテ、意思間曠ナリ、帝躬親テ之ヲ訪フ、其容貌ヲ望ムニ、貧窶衣服垢穢、日ニ向テ背ヲ曝ス、帝進テ問テ曰ク、卿モ亦關乏スル所アリヤ、曰ク、吾子、吾前ニ立テ、太陽ノ我ヲ照スヲ障ス、是レ關乏ノミ、帝其言ヲ聞テ大ニ驚ク、帝兵ヲ亞細亞ニ發ス、歩兵三萬騎、兵五千、初テカラニキス、河上ニ戦フテ、百爾西亞ノ兵ヲ敗ル、サルヲ^一五^二左セ等ノ諸府皆門ヲ開テ降ル、帝大ニ敵國ヲ征討セシト欲ス、然レ兵士皆懷土ノ情ヲ抱クヲ見テ、其心ヲ一ニシテ、^一二^二ト欲シ、輜重ノ船隻ヲ除ケ外、將士ヲ大ニ盡ク

兵艦ヲ毀タシメ、以テ其歸ル心ヲ斷ツ、乃チ進デハリ
カルナシ名地ニ抵リテ、大ニ其府ヲ攻ム、敵兵驍勇、善
ク拒グトイヘ、竟ニ之ヲ破ル、小亞細亞ノ諸侯皆帝
ニ從フ、此時ホシ名王トリダテス名王モ、亦降ル、爾
來、帝征討スルコト有ル毎ニ、必ズ從フ、帝「アリギ」ニ
在リ、兵ヲ遣テ「セ」子名國ヲ取ル、後「ゴル」ヲ名地ニ赴
キ、其地ノ歳星ノ像ヲ安置スル殿堂ニ詣リ、奇巧ナル
結紐アルヲ視テ、自ラ劍ヲ拔テ之ヲ斫斷ス、繼テ「カバ
ド」シ「ヲ降」シ、タル名ニ抵ル、偶入浴シテ、熱病ヲ得
タリ、病極テ危嶮ナリ、百兒西亞王、達柳氏之ヲ聞キ、侍

醫輩ニ金帛ヲ遺ル、是ヲ以テ、一人モ之ヲ治セント言
フ者ナシ、一醫生、其疾ヲ治スル藥ヲ劑セシト請フ、帝
ノ親友、名ル名ニ「ヲ書」テ帝ニ贈リ、ヒル名ニ「達柳氏」ガ
賂ヲ受ケ、帝ヲ毒セントスルヲ告ク、帝知ラザル為シ
テ醫ヲ召シ、藥盞ヲ手ニシ、封皮ヲ拆開シタル、書ヲ覽
セシム、因テ其面ヲ睨テ、其藥ヲ服ス、此時ニ方テ「口ウ
セ」ア名ハ「五」ニ在リ、帝ノ動靜如何ヲ伺フ、病初テ
愈ル寸、達柳氏兵ヲ發メ、帝ヲ伐ツ、帝之ヲ「イ」ニス、河畔
ニ逐ヘ、戰テ大ニ之ヲ敗リ、金帛輜重ヲ得ルコト算ナク、
其親族ヲ生捨ス、帝之ヲ待ツ禮アリ、又達馬斯谷名ヲ圍

リス府ハ殷富壯麗天下ノ奇觀タリ帝一日大ニ酔テ
 之ヲ焚ク醒テ後大ニ悔悟シ速ニ兵ヲ起メ又達柳氏
 ヲ追フバクトリアナノ將ベスス達柳氏ヲ捕テ之
 ヲ殺ス帝達柳氏ガ屍車上ニ横ハリ創痍身ニ滿ルヲ
 見テ涙ヲ垂レテ懇ニ之ヲ弔シ百爾西亞ノ葬儀ヲ用
 テ厚ク之ヲ葬ル次デヒルカニ上マルセンラン上バ
 クトリアナヲ降シ遂ニ立テ亞細亞王ト為ル帝素ト
 規模宏大識量廣遠大ニ四方ヲ經營セント欲シ其冬
 駕ヲ亞細亞ノ北部ニ進メ北高海ニ抵厄勒祭亞人當
 時未ダ履歷セザル地ナリ帝名ヲ好シ地ヲ拓ク心是

ニ至テ尚未ダ艾マラズ名國ハ蠻夷禮義ヲ
 知ラザル邦ナレドモ又之ヲ征討メ其君ヲ朝セシム
 已ニノ駕ヲバクトリアナニ返シ明年又近國ノ未ダ
 服セザル者ヲ征シソグアナ全國ヲ從ヘヲキシイ
 アルテス名カ一族ノ帝ニ抗拒スル者ヲ捕獲シ又其
 女口キサ子ヲ娶ル一妍好女子ナリ是ニ於テ其父帝
 ニ服事ス
 帝已ニ四國ヲ臣服シ人民泰平ノ化ヲ戴ク是ニ於テ
 駕ヲ發メ印度ニ幸ス即千應多江チンタヲ濟リ國侯カピル
 ス名ト和ヲ約ス既ニメヘイダスペス河ヲ濟ルホル

申
五

名之ヲ中流ニ要擊セントス、帝迎へ戰テ之ヲ破ル、
 曰ク封メ王ト為サン、ホリス乃千臣ヲ稱ス、帝其國ヲ
 返シ與ル外、諸地ヲ増封シ、ラントホーグトノ爵號ヲ
 賜フ、已ニノ駕ヲ進メ、安義江ヲ濟リテ、東セントスレ
 尺、群從皆怨ムルヲ以テ、已ムトヲ得ズ、メ、駕ヲ回シ、數
 道ニメ危難ニ遇フト云、ヘイダスベス江ニ抵リ、軍艘
 ヲ集メ、其鹵簿ノ一半ヲ分テ、自ラ隨へ、船ニ乗メ、江ヲ
 下リ、其一半ハ、江ノ兩岨ニ循ヒ行カシム、已ニ江ヲ下
 リ、又應多江ニ航メ、大海ニ達ス、馬則多泥亞人、未ダ大

海ヲ見ス、驚テ以テ壯觀トナセリ、嗣テ軍艘ヲ百爾西
 亞海灣ニ進メ、水路ヲ舍キ、旱道ヲ歷テ、罷鼻落ニ返ル、
 途亞拉比亞ノ沙漠ヲ經、軍士食匱ク水ナキヲ以テ、或
 亡相望ム、軍士帝ニ從テ百爾西亞ニ歸ル者、僅ニ四分
 ノ一ナリト云、帝今サニ在テ、達柳氏ノ長女、スタチ
 ト婚ス、典儀極テ盛大、古今未ダ聞カザル所タリ、既
 ニノ、罷鼻落城ニ行キ、更ニ後來人、大志ヲ成サント圖
 ル、適病ム、二三日、大ニ酒ヲ被ムリ、暴ニ崩ス、壽三十
 二歳時ニ帝嗣未ダ定ラズ、諸將爭議、二日、遂ニ皇弟
 アリ、立テ、位ヲ嗣シム、ヘルカス、ハ、厄弱大政

ニ任スルニ堪ヘザルヲ以テ一位政官ト為ス帝ノ屍
ハ布多祿某氏之ヲ金棺ニ殮ムアレキサンドリ
某寺内ニ葬ル

亞理斯多得列氏即明譯亞理多是ナリ

亞理斯多得列氏按ニ蓋シスタキラハ
斯多ト云ヘル義ナリ是ヲ以テ他ノ亞理斯多ハ古今
ノ姓ノ人ニ分ツ必シモ人名ニ非ザルベシ
ニ傑出シタル多智ノ人ナリ今其一ニ履歷ヲ撮テ
左ニ開スト云亞理斯多ハ紀元前三百八十四年ニ生
ル歳十七アリテ子ニ到リ布刺多ニ從テ術藝ヲ學ズ性
精敏學ヲ勉メ業大ニ進ム布刺多曰ク亞理斯多ハ猶

學校ノ精神ノ如シ布刺多已ニ没メ後其友ハルミア
スト云者ミイシイ部内アルカル子ノ地ニ在リ亞理
斯多之ニ其地ニ就キ終ニ其妹ヲ娶ル後聘セラレテ
歷山王ノ師傅ト為ル歷山王曾テ曰ク我レ師傅ヲ愛
スルヲ父王ニ超メ然レモ後ニ及テ寵待衰フ亞理
斯多既ニ幼主ヲ撫育メ大ニ其力ヲ竭セリ數歳ノ後
又アテ子ニ返リイセエムニ學校ヲ躬メベリパテ
チセン學派ノ開祖ト為ルアリバテチカハ亞理斯多
ノ道ヲ講シ業ヲ明ニスト術語韻府ニ見ク歷山王崩
後敵國ヨリ僧ヲ遣シテ亞理斯多ヲ讒間ス亞理斯多

曰ク「アテ子人ヲメ、再ビ我學術ヲ凌辱セシム可カラ
スト云ヒ、乃チ「アテ子ヲ去リ、カルシハニ到リ、竟ニ没
ス、其一生著ス所ノ書冊、極テ浩瀚ナリ、然レモ和蘭ニ
傳ハラサル者亦多シ、其學術ニ於ル博ニメ通セザル
所ナシ、又寰宇ノ理學、辨物多識ノ説ニ明ナリ、其「ア
テ子」地名ニ居ル寸、詩名一時ニ騁スト云、

俄羅斯帝伯德球初世

伯德球初世、アレキシシ多ハ、卧盧的才德萬人ニト
尊號シ、カサール漢ニ稱メ、察ノ位ニ即タル、俄羅斯ノ
帝ナリ、俄羅斯ノ版圖、今ノ如ク鉅大ナルハ、此帝ノ力

ニ由レリ、一千六百七十二年、莫斯科窪ニ生ル、都府父
ハ「カサール」帝アレキシイ、ミカイロ多以母ハ「アレキ
セイ帝」ノ次配、ボヤール下ニ詳ナリスキンノ女、ナ
リアキリコウナナリ、其幼キ時、鞠養訓導ノ法、師友ノ
道皆備ラズトイヘモ、聰明敏、既ニ卧盧的ト稱スベ
キ、徳ヲ備ヘリ、故ニ帝ノ長兄、テラドル、アレキシイ
ツ帝崩ズルニ及テ、遺命ニ帝ノ兄「ワシ」ヲ踰ヘテ、大
位ヲ嗣シム、此レ實ニ、一千六百八十二年ニ丁レリ、時
ニ帝年十一歳、然ルニ帝ノ女兄「ソフィア」アレキシウナ
政權ヲ專ニセントスル心アリ、竊ニ國內、カトレルツ

一部ノ兵ヲ啖メ、亂ヲ興サシメ、因テ帝ヲ要メ、レトテ、
レデントト 幼主ヲ輔ト 為リ、其幼冲ナル間、擅ニ朝ニ臨
ミ制ヲ稱ス、帝年甫テ十五歳、隱然トメ、邦家ヲ嚴備ス
ル心アリ、乃チ陣法ニ從事シ、兵卒ヲ練リ、患難ニ處メ、
少モ其志ヲ撓マサズ、レトレルツ部ヲ討テ、危難ニ逢
ヒ、身ヲ殉セントスルノ數ニメ、遂ニ之ヲ降シ、收テ已
ガ兵トナス、其兵皆勇偉、遇フ者辟易セザルノ十三、越
テ三年、帝歳十八、英明衆ニ超ユ、早クレソヒアガ陰ニ黨
ヲ結ビ、不軌ヲ圖ル心アルヲ察シ、收テ之ヲ一寺ニ幽
ス、其初レソヒア帝ノ傳統ノ次ニ非ズメ、位ヲ嗣クヲ以

テ、帝ヲ廢セントスル心アリ、乃チレソヒア立テ、帝
ト為ス、是ニ於テ一國兩帝アリ、是ニ至テレソヒアメ
位ヲ避シメ、初テ俄羅斯全州ヲ領スルヲ得タリ、乃
チ倍心ヲ專ニメ、海軍ヲ備ヘントス、初メ俄羅斯ノ寶
庫ニ、英吉利ノ故船一隻ヲ藏ス、蓋シ先帝ノ珍異ナリ
トメ、貯ヘシ所タリ、帝一日、寶庫ヲ閲シ、其船ヲ觀テ感
賞シ、遂ニ海軍ヲ備ル志ヲ立ツト云、然レモ俄羅斯ノ
地形、止テ一方海ナルヲ以テ、其船ノ佳惡ヲ知ル者ナ
シ、且ツ此州、從來一隻船ヲモ、造修シ出スノ能ハサレ
バ、帝ト共ニ此秘器ヲ視シ者、皆呆然トメ、望ヲ絶テ、敢

テ其航海ノ一精品タルヲ仰ク者ナシ然ルニ帝天資
 穎異絶特己カ鬱スル所ヲ覈知セントスル心深ク獨
 リ私ニ惟ラ久海舶ヲ備フル寸ハ山嶽ニ登リ川澤ヲ
 渉ルヲ俟ズ直ニ積水ヲ横絶メ學術隆盛治教休明ノ
 諸國ト聲息ヲ通シテ斯民ヲ裨益スベシト云ヒ乃チ
 船隻ヲ造修シ英吉利舶ヲ本國ニ來ス方略ヲ施ス此
 時邦内尚未ダ一隻ハフレダト艦ヲ備ヘザルニ先ヅ
 一員大將ヲ撰テアドミラール都督ニ任ス初メ先帝
 アレキセイ和蘭船匠ヲ召テ一艦ヲ造シメ北高海ニ
 泛テ百爾西亞ト交易セントス船成ル名ケテアルデ

ラール靈ト云航メ亞斯答臘罕ニ到ラントス同河ノ
 哈薩克人種ノ名攻テ之ヲ燬久士卒敗レ走ル獨リ和蘭人
 二名アリ莫斯科窪ニ走り返ル其一人ハコンスタ
 ペル官名船上ノ打礮手云カルステニブランドナリ是ニ至テ
 帝又擢テ一位造艦大匠ト為シ大ニ舟楫ヲ造修ス一
 千六百九十三年ブランドヲメ自ラ造リタル軍艦ニ
 駕メアルカングルニ到リ本州軍人ノ須フル哆羅戎
 ヲ貿易セシム
 帝又國內ノ民庶鄙野無術逸惰性ヲ成セル陋俗ヲ一
 洗セントシ乃僅ニ數年ニメ數百年來汗深ノ惡習夷

風ヲ丕變スルニ至レリ、初メ帝謂ラク俄羅斯ハ、歐邏
 巴洲内ニ、在リトイヘ、氏餘國ノ如ク諸科ノ學術未ダ
 盛ニ興ラズ、宜ク大ニ他國ノ學者ヲ招キ、其道ヲ講明
 スベシ、乃チ多ク天下ノ碩儒、名士ヲ會集ス、裡ニ就テ
 赫勿婁亞内、ゼ子^レハノ人、列福耳多ト云ヘル大賢、其
 徵ニ應ス、其人齡尚弱冠、帝ト交ヲ訂テ友ト為リ、常ニ
 帷幙ニ參メ、帝ヲ輔弼シ、大業ヲ贊成セリ、其初政ニ先
 ズ當時本州ノ兵制ヲ變メ、歐邏巴風ト為ス、初メ佛蘭
 西^レゴゲノ^レテン人種亂ヲ為ス、ナシテス府、佛蘭西^レ河
 ニア^レノ政官一禁令ヲ出ス、其人種肯テ從ハズ、遂ニ逃

テ俄羅斯ニ來ル者數百千人、是ニ至テ、皆之ヲ軍伍
 編入シ、三萬人ヲ得タリ、列福耳多^レゴルド^レシ、二人ヲ又
 之ヲ統帥セシメ、陣法ヲ操練ス、幾ナラズ、人部伍嚴整
 進退法アリ、皆用フベシ、
 帝曾テ謂ラク、土俗ヲ丕變シ、文化ヲ開クハ、交易ヲ四
 方ニ通スルヨリ善キハナシ、窩々所德海、黑海ハ、俄羅
 斯大河ノ通スル所ナレバ、舟楫ヲ此ニ通スルヲ便宜
 ナリトス、後都爾其^ト戰ニ及テ、帝自ラ同河ニ到リ、ア
 ソ^レヲ取テ、貿易諸物人放地ト為シ、以テ黑海ノ互市
 ニ便セント欲ス、乃チ兵ヲ率テ、アソフ城ヲ圍ム、城堅

固ニメ、未ダ抜ラ能ハズ、急ニ兵ヲ收テ、莫斯科窪ニ歸
 リ、其兄「イワン」ガ疾ヲ省ミテ永訣ス、此時俄羅斯飢歉
 ス、「リガダン」チクニ地ノ粟ヲ糶シ、之ヲ本州人、賈舶ニ
 テ海運シ、國中ノ餓莩ヲ救濟ス、又和蘭オ、ステンレ
 イキ、フランダシ、以上地名ヨリ、築城ノ學ニ熟シ、大
 煩ヲ點放スルニ慣フ人材ヲ援キ、軍卒ヲ訓練ス、是ニ
 於テ、軍備倍整フ、一千六百九十六年、新ニ同河ノ側ニ、
 造船場ヲ置キ、一隊二十三隻入、ガレイエニ、艦ヲ備ヘ、舷板低ク、
 二播ヲ立、及ビ「ガイルラスセ」ニ、一種ノ船、二艘、燒舸四隻ヲ
 造リ出セリ、乃チ此水軍ヲ率テ、都爾其ト、アソフニ戰

テ之ヲ敗リ、此年六月、アソフ城ヲ取ル、此城ハ黑海ノ
 鎖鑰タルヲ以テ、此地ヲ堅固ニ、ナサント欲シ、軍艦五
 十五隻ヲ造リ、築城學家「アラトケル」ニ命メ、佛兒格河
 ト、同河ノ交會ニ、大渠ヲ鑿タシメ、且壯年ノ貴官數員
 ヲ、和蘭意太里亞ニ遣テ、造船ノ法ヲ講習セシメ、又貴
 官輩ヲ、黃祁ニ遣テ、兵事ヲ學ハシム、
 一千六百九十七年、「ストレモツ」ノ兵、及ビ大臣數輩、亂
 ラ作シ帝ヲ弑セント謀ル、帝又其亂ヲ平ダ、爾後外國
 ニ、遊歴セント欲シ、「プリン」爵名「ロマノトウスキ」及
 ビ「ボヤール」シ、俄羅斯ノ官名、猶諸侯ノ如三員ニ朝政

ヲ委シ、身ヲ外藩使者ニ扮ス、蓋シ俄羅斯ノ舊制常ニ
 使命ヲ外藩ニ發ス、故ヲ以テ、帝其裝ヲ扮メ、諸國ノ風
 ヲ觀ルト云、是ニ於テ、エストランドン、注、本カールフラン
 此時、二國、皆雪、際アランデン、際ハノーフル、際エスト
 ハーレンヲ歷テ、アムステルダムニ來リ、又轉メ、際サ
 ンダムニ赴キ、和蘭製ノ衣服ヲ穿テ、名ヲ伯德球密加
 越羅夫ト更メ、身ヲ匠作ニ扮シテ、名ヲ工役名簿ニ署
 シ、遂ニ其地ノ一小屋ニ就居シ、躬親ラ食ヲ作ル、其本
 國政官ト、書牘ヲ往來シ、手自ラ匠斧ヲ操リ、帆桅龍骨
 ヲ斲ル、而後又、アムステルダムニ返リ、親ラ監視メ、六

夢霞樓藏

十門礮軍艦ヲ造ラシメ、已ニ成テ、海運シテ、アルカン
 ゲルニ輸ス、又意ヲ諸學術ニ留メ、一藝ノ微ト雖、凡、徒
 ニ看過スルヲナク、必ズ手自ラ之ヲ驗シ、或ハ外科諸
 術ヲ修ムルニ至ル、又酷ダ航海ノ技ヲ嗜シ、海上情狀
 ヲ熟知セント欲ル心尤深シ、際ウレム三世王、帝ヲ要
 メ蘭頓ニ來ラシム、是ニ於テ、英吉利ノ船卒裝ヲ為テ、
 王船造場ニ寓ス、毎ニ曰ク、若シ我俄羅斯帝ナラザリ
 セバ、願ハ英國ノフロート、艦隊ホーダト、將校ト為ラント
 云ヘリ、此土ニ在ル間、帝ニ給仕スル者六百餘人、皆軍
 校、築城學士、礮手、外科等、一藝ニ長ズル人ナリト云、諸

夢霞樓藏

ノ帝ト交ル者其材器ヲ賞セザルハナシヲキスホル
トノ大學校ヨリ特命褒書ヲ與ス居ル三月ニメ英
吉利ヲ去リ和蘭ヲ過ギテレステンヲ經テ子ニ
赴キ意太利亞ニ到ラント欲ス然ルニストレヨク
ノ兵又亂ヲ作シ帝ヲ廢セント謀ル故ヲ以テ一千六
百九十八年九月帝急ニ莫斯科窪ニ返ル此時アルド
ン^{上ニ}見ユ已ニ其亂ヲ平ダ然レバ帝ノ怒猶未夕霽レズ
反賊ヲ收テ盡ク慘刑ニ處セントシ十月ニ迄テ日ニ
罪人ヲ刑戮ス血浪之ガ為ニ平地ニ泛濫ス帝反賊ノ
巨魁ハ女兄ソヒアナラント疑ヒ嚮ニ徙シタル寺前

ニ縊臺ヲ建テ一百三十人ヲ縊死ス内三人ハソヒア
ヲ勸テ反セシメント欲シ一書ヲ修メテ深閨ノ窓ヨ
リソヒアガ手ニ交セシ罪ヲ以テ亦此刑ニ處ス其餘
五百人ハ放流スストレヨク隊兵ヲ緝捕メ盡ク屠戮
シ一十七百五年其餘兵ヲ亞斯太臘干ニ流シ新ニ二
十七列細綿屯ノ步兵二列細綿屯ノダラゴンデル^事
ニ應メ或ハ歩シ或ハ騎スル輕兵ヲ云テ設ク兩隊合メ三萬三千餘人擦
練スル三月皆善ク練熟メ進退規矩ニ中ル帝妃エ
ウドキシア閨房ヲ奉ルヲ惡ム帝因テ其反賊ニ黨ス
ルヲ疑ヒ空スダル^{地名}ノ寺ニ徙シ其名ヲ易テヘレテ

ト云ヒ、帝妃ノ位ヲ奪ヒ、庶人ノ衣ヲ服セシム、
 此騷亂ノ際帝ノ二友、列福耳多、ゴルドンモ亦死ス、
 シシコフト云者アリ、元ト卑賤ナレドモ、才智衆ニ超
 ヘ、カヲ王事ニ竭スヲ以テ、帝大ニ之ヲ擢用シ、恩寵優
 渥ナリ、帝已ニ數、反亂ノ變ニ遇ヒ、自ラ謂ラク、國ヲ治
 メ民ヲ安ズルハ尤急務ナリトシ、精ヲ勵シ治ヲ圖ル
 心愈切ナリ、是ニ於テ國中ノ貢稅ヲ減シ、ボヤール
 ノ鹵簿ノ數ヲ省カシメ、又國益ヲ開クガ為ニ、外藩ニ
 出游シ、聚珍版ヲ創メ有用ノ書ヲ購求シ、國中ノ大府
 ガトニ、學校ヲ建テ、新ニ寺觀ノ律令ヲ定メ、歐邏巴諸

州ヨリ兵學ニ精通シ、諸術藝ヲ覈明スル人、及ビ諸工
 匠ヲ招キ邀ヘ、國中ノ土民ヲ召テ、告テ曰ク、汝等ヲメ、
 皆其處ヲ得テ富殖ナラシメ、土地ヲ衛護メ、爭亂ノ患
 ナカラシメント約シ、竟ニ其言ヲ踐テ、金坑ヲ開キ、家
 畜ヲ蕃殖シ、耕耘ヲ勸メ、輿地築城ニ科學者ヲ、四方ニ
 遣テ、封内諸州ノ地圖ヲ作ラシメ、兵器ヲ造ル鍛冶場、
 諸器什造廠ヲ設ク、已ニメオ、ステンレイキト兵ヲ
 構ス、カル口多ツニ盟フ、後兩國兵ヲ釋ク、一千七百年、
 帝又和睦ノ期ヲ延テ、三十年ト為サント約ス、然ルニ
 雪際亞王加列兒十二世、兵ニ將トメ、俄羅斯ヲ伐シ、波

羅尼亞ノ子ルヲニ迎ヘ戰テ敗ラル、然レモ帝恐怖ノ
 色ナク英氣已ニ雪際亞ヲ吞ム、帝嘗テ曰ク雪際亞終
 ニ必ズ戰克ツ所以ノ陣法ヲ我ニ訓フベシト、此レヨ
 リ以來戰敗ル、ゴトニ大捷ニ近ク、已ニ一步ナリ
 ト云ヒ、益、淬勵メ、此レニ克ツベキ方略ヲ設ク已ニメ
 帝、加列兒ガ波羅尼亞ニ在ルヲ伺ヒ、虛ニ乘メ、インゲ
 ルマンランド、クルランド、及ビリーブランドノ一
 部ヲ取り、一千七百九年、ユルタワノ地ニテ、加列兒ガ
 兵ヲ殲ス、哈薩克ノ酋、マスセ、初メ加列兒ニ屬シ、已
 ニメ、又俄羅斯ニ從フ、帝善ク駕馭ス、是ヲ以テ、其帝ニ

事ル、加列兒ヨリモ謹メリ、乃チ其兵ヲ部伍ニ編入
 シ、俄羅斯ノ兵、倍、驍勇一為ル、遂ニ兵ヲ發メ、急ニ雪際
 亞ヲ襲ヒ、一千七百十年、更ニリーブランドノ餘部、
 ヲルグケロルムヲ取ル、

加列兒十二世ハ、俄羅斯ノ敵シ難キヲ察シ、援ヲ都爾
 其二請ス、都爾其兵ヲ進テ、俄羅斯ヲ伐ツ、其兵俄羅斯
 ヨリ多キ、四倍、一戰ニ俄羅斯ヲ鏖殺セントスル勢
 アリ、此時、俄羅斯ノ兵糧未ダ備ラズ、然トモ帝、
 河ヲ濟リ、都爾其ノ大ヲシ、
 甲冑兵隊ノ名、大ヲ
 一、
 其總將、
 一、
 能ハズ、繼

妃加太理那一世都兒其人、大イシールニ和ヲ納ル、一
千七百十一年和盟成ル、乃チ圍ヲ解キテ、帝生還ル
ヲ得タリ、是ニ於テ、嘗テ取ル所ノ「アソフ」及ビ、黑海諸
城ヲ都爾其ニ返シ納ル、帝已ニ都爾其ト和シ、力ヲ專
ニメ雪際亞ヲ攻メ、肥良的亞全國ヲ取り、數々雪際亞
ノ兵ヲ破ル、一千七百二十一年、雪際亞力屈シ、和ヲ乞
フ、終ニ「子イス多テル」ニ盟フ、是ニ於テ、「インゲルマン
ランド」、「エストランド」、「リフランド」及ビ「シヅルクス
レン」、「ケロルムスレン」ノ一部ヲ取テ、永ク俄羅斯ノ版
圖ニ歸ス、初メ帝、加列兒十二世ト戰フ、毎ニ二人皆士

卒ト俱ニ、單身戰陣ノ中ニ進ミ、其衣銃丸ニ中リテ、穿
破スル者數處、一日、加列兒戰破レテ、獨リ逃久、日已
黄昏ナリ、帝雪際亞ノ「ゼ子ラトル」大將ヲ見テ、謝メ曰ク、
汝王ノ訓ヲ得テ、戰勝ヲ習フトヲ得タリ、北邊ノ兵旣
結テ解ケザルト二十一年、是ニ至テ、其亂初テ定ル、帝
兵ヲ出ス、此ノ如ク久シク、國財匱乏スルヲ告ケズ、
國勢愈々昌盛セリト云、
帝已ニ雪際亞ニ戡メ、是ニ於テ、天ヲ祀リ、大ニ天下ニ
赦ス、惟人ヲ殺セル者、盜賊ノ自ラ過ヲ悛ルトヲ知ラ
サル者ハ、此例ニアズ、且一千七百十七年ニ至ルマ

命ヲ贖ヒ、身ヲ戕フ刑此方ニテ、劊刑ノ類ニ處ス其餘刑ニ
 處スル差アリ、一千七百二十四年、又兵ヲ雪際亞ニ耀
 シ、雪際亞弟那瑪爾加ヲ威懾シテ、ホルステイン赫
 督撫ノ為ニ、和議ヲ講シ、遂ニ弟那瑪爾加王ヲ又歲銀
 二萬五千ダール銀貨ヲ納レシメ、且雪際亞ノ嗣
 ヲ定ム此時、ホルステイン赫督撫已ニ又、船ニ駕メ、
 ロンヌ多トニ返リ、新造船隻ノ落成ヲ賀シ、祭祀ヲ設
 ク、其船隻ハ、四十一艘、大礮二千一百六十六門、船卒一
 萬四千九百五十名ナリ、其後、新都伯德球城ニ、幾多ノ
 便宜ヲ備ヘ、要害ヲ構ヘ、又新ニ雪際亞ト、交易ノ制度

ヲ約シ、一千七百二十四年五月、妃加太里那ノ功ヲ賞
 メ、女帝ノ位ニ即カシメ、十一月鍾愛女子、アンナナヲ、ホ
 ルステイン赫督撫ニ嫁ス、
 己ニノ帝局發ノ疾アリ、精力稍減スルヲ覺フ、一千七
 百二十四年晩秋、セイステル地ニ幸シ、鍛冶及ビ鑄
 銃廠ヲ査視ス、日已ニ暮ル、名及デ、士卒數十
 名、小舸ニ乗メ、河ヲ渉ル、風駛ク波高ク、岸ニ上ルヲ能
 ハズ、舟將ニ覆没セントスルヲ見テ、帝自ラ躍テ、水ニ
 入り、士卒二十餘名ヲ拯ヒ出シ、因テ又寒疾ニ感ジテ、
 宿痾倍劇シ、一千七百二十五年、尚疾ヲ忍テ、新禧ノ祭

祀ヲ行フ古制ノ如シ、二月八日、病大漸トナル、女帝湯
 藥ニ侍シ、帝ヲノ「メ」ンシコフガ罪ヲ宥シ、其官ヲ復セ
 シム、竟ニ崩ズ、壽五十三、加太里那一世、帝位ヲ襲フ、初
 メ帝太子アレキセイ、ペト口多ツヲ生ム、狼戾恣睢、其
 人ト為リ、大統ヲ承ルニ足ラズ、又帝ノ知ラザルニ乘
 ノ、其國ヲ出奔ス、シ「フ」ルホフ、メ「ト」ル、政第一位メン
 シコフ、太子ヲ帝ニ譖ス、帝之ヲ捕ヘ、鞠問スルヲ極テ
 嚴酷、竟ニ帝ノ前ニテ、其頭ヲ斷ツ、或ハ曰ク、帝手自ラ
 之ヲ誅ス、

那波列翁

那波列翁、姓ハ勃那把爾的、又蒲阿那把爾的ニ作ル實ニ一千七百
 六十八年、第二月五日ヲ以テ、哥爾西加島内「アヤシ」ヲ
 ニ生ル、頃之ニメ、佛蘭西「アヤシ」ヲ取ル、那波列翁有
 生ノ初ヨリ、佛蘭西版圖内ノ人タリト稱シ、以テ國人
 ヲ懷ント欲シ、自ラ一千七百六十九年、八月五日ニ生
 ルト云フ、此一事既ニ、其天資桀驁、詐力ヲ以テ多智ノ
 佛蘭西人ヲ駕馭シ、大ニ土宇ヲ開拓スル雄略ヲ概見
 スルニ足レリ、父ハ「カ」ル口ボナバルテ、又「カ」ル「バ」カ
 ト云、哥爾西加ノ貴冑ナリ、カルチナール、僧官位寶帥ニ
 ダ、亞「ス」ガ、名「ガ」女兄弟「マ」リ、ア「ラ」チ、ア「ラ」モリニカ、美麗

ナルヲ聞テ、之ヲ聘シ、五男三女ヲ生ム、那波列翁ハ、其
 二子ナリ、小字ヲ「ナポリ」ヲト名ク、幼ニメ沈毅寡黙、
 哥爾西加浮躁ノ風ヲ喜ハズ、甫テ八九歳、一本ニ、一千
年ニ作ル、然ラハ、其哥爾西加ノ、嘉樂撫鎮臺ノ類マルベウ
年十一歳ナルベシ、其哥爾西加ノ、佛蘭西ノ王國武校ニ遊バシム、
介ノ、「リイン」子、一府鎮、ノ王國武校ニ遊バシム、
 初メ「ルベウ」フ、哥爾西加ノ「ウフルニウルゼ子ラ
リ此、知縣、太、タル寸、ラチ、「ガ嘉脱」ヲ蒙ル、是ヲ以テ
 其二子ヲ遇スル、殊ニ渥シト云フ、那波列翁既ニ武
 校ニ入り、諸生ト共ニ遊嬉スル、ナク恒ニ思フ度學
 古史ニ覃フシ、心竊ニ古ノ英雄ヲ慕ヒ、喜テ兵事ヲ談

シ、遂ニ大ニ兵學ニ耽ル、此時佛蘭西ノ人、兵ヲ講シ、武
 ヲ好ム者アラズ、那波列翁ガ行、獨リ嶄然トメ、頭角ヲ
 見ル、嘗テ諸生ト、隊ヲ分テ戰ヲ演ス、那波列翁歳未ダ
 弱冠ナラザレド、善ク奇策ヲ畫シ、部署ヲ嚴ニシ、數々
 寡ヲ以テ衆ニ克ツ、一千七百八十四年、オヒシトル長
 ニ擢ラル、武臣多ク、其軍事ニ長ズルヲ見テ、深ク愛敬
 ス、既ニメ「ブリイン」子ヲ去リ、巴里斯ノ兵校ニ入り、留
 學スル、若干年、歳十七、其兵校ヲ辭シ、煩隊第二級口
 イテナント、位、甲必丹、ニ亞ギ、甲必丹在ラザル寸、代リ
テ號令ヲ傳フル官、隊長中ノ重キ者ナリ、
 ニ拜セラル、此時佛蘭西ノ兵亂、初テ起ル、而メ那波列

申與國代前 卷四 十一

將ヲニ累遷ス、此時意太里亞ヲ攻ル兵節制整ハズ、數々敗劔ス、故ヲ以テ、那波列翁ニ命ズ、之ヲ救ハシム、是ニ於テ、那波列翁初テ大ニ其韜略ヲ試ムルコトヲ得タリ、已ニメ進仕ノ途忽チ窮シ、ロベスピール人ガ罪ニ累坐ス、初メロベスピールレ政ヲ為ス慘虐、義團會議メ、令ヲ諸州及ヒ義團ノ陣ニ下シ、テルロリスレテシノ殘虐當時ロベスピールレガ兵、殘虐ヲ捨テ、其兵器ヲ收メシナルヲ以テ、此名ヲ得タリ、ム、此時ニ方テ、那波列翁シ地ニ在リ、亦緝捕セラレ、頃アリテ、又赦サル、然レモ罪ニ坐メ、意太里亞陣ハ、テリガ一テセ子ラル此ノ職ヲ褫フ、急ニ巴里斯ニ赴キ、

己カ冤ヲ伸シト欲ス、然レモ其陳スル所竟ニ聽レズ、是ニ於テ落魄孤立、救援スル人ナシ、乃チ佛蘭西ヲ去リ、都爾其ニ赴キ、顯榮ヲ求ント欲ス、亦其准ヲ得ズ、既ニメ新ニ和蘭軍ノ煩軍指揮ト為リ、旅裝ヲ結束ス、適巴里斯ノ僧徒亂ヲ作シテ、義團ニ逆ス、バルラス之ヲ防ク、那波列翁ハルラスガ部將ト為リ、一軍ヲ統領メ、之ヲ伐ツ、一千七百九十五年、佛蘭西王黨兵ヲ發メ、共和鄉黨ヲ伐ニ及テ、十月五日、義團那波列翁ガ前功ヲ録シテ、テ子ラルモ亦軍隊ノ名見ニ拜ス、居ルコト三月、一千七百九十六年、バルラス又

申與國裁甫 卷四 三十三

那波列翁ヲチレクトイレ義團ノニ薦ム、乃チ擢デ、
 又意太里亞軍ノ、シプルベ左ルブル大將軍ニ任
 ズ、バルラス又故將領ベアウハルノイハガ、孀婦ト素
 ヲリ相親善セリ、是ニ至テ、媒妁シテ、那波列翁ニ再醮
 セシム、婦ノ家本ヨリ富メリ、是ヲ以テ那波列翁、其富
 ニ據ルヲ得タリ、
 那波列翁既ニ命ヲ奉メ、意太里亞ニ赴ク、此時義團ノ
 兵羸弱、兵仗備ラズ、窩々所德禮畿ハ、其兵六萬人、ベア
 ウリシウ之ヲ統帥ス、那波列翁ハ固ヨリ、軍事ニ諳鍊
 スルヲ以テ、勅敵ヲ破ル策略ヲ定メ、四月十二日、之ヲ

チイニテ、シテニ破リ、翼日又之ヲ、ハルレシシテ「デ」ニ
 敗ル、窩々所德禮畿、比蒙突ノ兵、分隔シテ送ニ、聲息ヲ
 通スルヲ能ハズ、那波列翁、終ニ本隊ノ兵ヲ引率メ、直
 ニ敵陣ヲ衝ク、敵兵敗レ走ル、二十二日ノ晩、兵ヲ「モン
 ド」イニ進メテ之ヲ取ル、一千七百九十七年四月十
 八日、「カ」ベシノ義團ト、大ニ戦テ之ヲ敗ル、敵兵和ヲ
 請フ、遂ニ「カ」ポホルミノ地ニ會シテ條約ヲ定ム、
 是レヨリ先キ那波列翁、勿搦祭亞ヲ略シ、古來ノ州縣
 ヲ破滅セリ、今是ヲ窩々所德禮畿ニ割與フ、窩々所德
 禮畿ハ、其所屬ノ涅埜爾蘭甸ヲ餽テ、以テ之ニ答フ、其

後政官又那波列翁ヲ、經略軍務大將軍ト為シ、英吉利ノ兵ノ、厄日多ニ在ル者ヲ、劫略セシム、一千七百九十八年五月十九日、急ニ兵艦ヲ會聚シ、精兵三萬ヲ帥テ、トウロシヨリ發シ、途ニノ馬兒太島ヲ降シ、アレキサンドリシニ到リ、艦ヲ舍テ、陸路ヨリ急ニ攻テ其府ヲ取り、進テ該カ祿城ニ克ツ、八月初一日、英吉利ノ、ゴロト、ホークト將子ルソニ、西史外傳ニ其アレキサンドリニ來リ迫リ、トウロシノ船隻ヲ、アレキル洋面ニ討ツ、人舟幾ト殲ク、逃テ馬爾太島ニ返ル者、僅ニ二隻、是ヲ勃那把爾的氏、初次ノ敗績トス、九月、ボルテ即都爾

其戰書ヲ遺ル、那波列翁ハ、英吉利ニ、歐邏巴ノ歸路ヲ斷タレ、前ニハ都爾其ノ兵アリテ、腹背敵ヲ受ルヲモ患トセズ、兵ヲ進テ、厄日多ヲ討ツ、然トモ全勝ヲ收ムルト能ハズ、其將トサイキスハ、都爾其ノ將トスドベイガ陣ヲセドマン地ニ討ツ、十月二十一日、該祿城中ニ反者アリ、那波列翁兵ヲ旋メ、其亂ヲ平ク、繼テ止里ノ地ニ動亂起ルヲ以テ、其冬十二月二十二日、自ラ一萬二千ノ兵ヲ引テ、其地ニ赴キ、兵ヲ遣テ、蘇厄私地峽、及ビ其地ノ海港ヲ取ラシメ、且ツ此地峽、紅海地中海ノ間ニ連ルト、果ノ世ノ説ク所ノ如クナルヤ、否ヲ查

點セシム、エルアリスガスサ、等ノ諸地ヲ略シ、一千七百九十九年、三月十八日、遂ニ「アクレ」ニ到ル、五月二十一日、那波列翁、アクレノ兵ヲ罷メ、士卒ノ病者ヲ其地ニ遺シテ軍ヲ旋シ、六月十四日、該祿ニ返ル、是ニ於テ、佛蘭西ノ兵勢ノ大ニ衰頽メ、振ハザルヲ、百方ニ救護淬勵ス、既ニノ都爾其ノ軍艦、アビキルニ抵リ、兵ヲ發メ、其城ヲ取ル、二十六日、那波列翁、自ラ將トメ、之ヲ撃チ、都爾其ノ兵ヲ敗リ、又其城ヲ取リ、以テ阨日多ノ役ヲ終ス、
此時、那波列翁、本國ノ檄書一通ヲ得タリ、書中英吉利、

兵ヲ發メ、佛蘭西義團ヲ伐チ、勢極テ危急ナリト告ク、且「シー」左ルズ建議メ、那波列翁ヲ舉テ本國ノ兵破レ、地蹙ム者ヲ、恢復スル大將タラシム、是ニ於テ、那波列翁ハ、兵將ケレエベルニ命メ、己ニ代テ軍務ヲ總督セシメ、潜ニ「ラン」子ス、
諸將ヲ率テ、阨日多ノ陣ヲ去リ、八月廿三日、舟ニ上リ、十月初九日、フレ左スニ到リ、舟ヲ舍テ旱路ニ就キ、十四日、凱陣ノ景色ヲ為メ、巴里斯ニ返ル、巴里斯ノ府官、其歸リ援クルヲ喜フ者多シトイヘ、或ハ其姦雄ニメ、測ルベカラザルヲ以テ、國家ニ不利アラシトス、

懼ル、者、亦少カラズ、老政官、那波列翁ヲ封メ、諸軍總
 督ト為ス、但シ其職務ハ一定スル所ナク、凡ソ萬姓共
 和ノ政治ヲ鞏固スルニ足ル者ハ、知テ言ハザルナ
 カラシム、是ニ於テ、一千七百九十九年十一月九日、那
 波列翁盡ク舊法ヲ改革ス、老政官、幾名、政官五百名皆
 聖格、碌德ニ會議ス、勃那把爾的モ、亦數隊ノ柘榴隊ヲ
 從ヘテ、其會ニ蒞ム、諸政官皆、ヲクタクトレ選瑪ニテ昔
危急ナル時、ヲクタクトレ官ヲ設テ弊政ヲ設ル不便
ヲ拯シテアリ、ヲクタクトレハ、上官ノ義ヲ設ル不便
 ヲ訴ヘ、大ニ喚テ四面ヨリ、那波列翁ニ薄ル、其衣領ヲ
 捉リ、劍ヲ拔テ之ニ擬ス、大將ハ及ビ柘榴隊士

一人之ヲ見テ、那波列翁ヲ救フ、會トモ亦其兵ヲ
 率テ來リ援ケ、遂ニ拔勇鎗ヲ以テ、萬姓ヲ驅斥ス、次日
 一二ノ機密ヲ諳知セル人、相議シテ、ヲレクトイレ從
有ル所ノ官ヲ停メ、新ニプロヲ子レコシル
州縣ノ事ヲ兼綜スル上政官、古ヘ羅馬三員ヲ立ツ、其
共和義團ニモ、此官ヲ設テ例アリ、其三ハ、テコス
 一ハ、勃那把爾的、其二ハ、シイレハ、テコス
 ナリ、十一月十七日、三人其官ニ拜セラレ、職ニ臨ム、是
 於テ、新ニ制度ヲ定ムルニ極テ神速、十二月十五日、
 早ク既ニ國內ニ布告ス、此レヲ共和義團第四ノ改革
 トス、勃那把爾的ハ、第一位コシルニ任シ、十年ヲ以

テ期トス、勃那把爾的、自ラカムバセレシ、レ、ブルシノ、
二人ヲ薦舉メ、己レト同官タラシム、此時ニ方テ、意太
里亞ハ、既ニ敵ニ攻取ラレ、黃祁、俄羅斯、那波里、都爾其、
ノ諸國ハ、猶兵ヲ發メ來犯サントシ、英吉利ハ、從前ノ
盟ヲ破リ、又是ト和セズ、事勢已ニ是ノ如ク急ナルヲ
見テ、第一位コンシ即チ勃那ハ、把爾的ハ、兵ヲ「テイヲ」一會
シ、一千八百年五月下浣、バルンハルズ山ヲ踰テ、兵ヲ
意太里亞ニ發ス、此ヨリ先キ、勃那把爾的、兵將「マスセ
ナ」ニ命メ、兵ヲ意太里亞ニ出サシム、「マスセ」敵兵ノ
強大ナルヲ見テ、兵ヲ收テ避去ル、是ニ至テ、勃那把爾

的、自ラ兵ヲ帥テ之ヲ援ク、六月四日進テ彌郎ミラウニ陣シ、
「シス、アルペイ」ノ共和義團ヲ復ス、佛蘭西ノ將「モレ
アウ」ハ、兵ヲ率テ黃祁ニ攻入ル、適窩々所德禮畿ノ兵、
熱弩亞ニ克テ還ルニ遇フ、「モンアウ」其兵ヲ以テ之ヲ
圍ム、是ニ於テ、佛蘭西、黃祁一戰ニ勝敗ヲ決セントス、
十四日十五日、「マレンゴ」ノ側、「カレス」サンドリア、トル
トナノ間ノ平野ニ戰フ、兩軍健闘、勢極テ猛烈、流血野
ニ被ル、佛蘭西ノ兵竟ニ大ニ戰克ツ、十六日、兩國講和
メ兵ヲ退ク、上意太里亞ノ地ヲ割テ、佛蘭西ニ與ス、
勃那把爾的ハ、竊ニ意太里亞ノ陣ヲ去リ、「マスセ」ヲ

大將トシテ巴ニ代ラシメ、七月初一日、巴里斯ニ返ル、
府人或ハ其歸ルヲ喜ブアリトイヘ、又其驕慢ニメ、
霸心日ニ盛ナルヲ嫉惡シ、因テ之ヲ害セント欲ル者
アリ、十月亂ヲ作ス者ヲ逮捕ス、十二月又一聲ノ爆炸
ノ下、勃那把爾的ヲ弒逆セント謀ル者アリ、然レバ狙
射中ラス、亦發覺シテ誅ニ伏ス、遂ニ大ニ餘黨ヲ搜索
シ、一千八百一年一月貴賤ヲ問ハズ、雅谷貌義團ノ人
員一百三十名ヲ緝捕ス、其七十名ハ放流シ、アレハセ
テシ等、人ハ初次ノ亂ニ與シ、此ニ至テ尚逆心ヲ懲創
セザル故ヲ以テ、首ヲ刎ノ刑ニ處シ、且

夢霞樓藏

フレ左クト府ヲメ、遍ク人家ヲ搜索シテ、兵器ヲ匿ス
者ハ盡ク繳納セシメテ官庫ニ鎖ス、是ヨリ前、一千八
百年九月三日、北米里堅合同國ト和シ、兩國貿易ノ法
制ヲ約ス、窩々所德禮畿モ、亦モレアウガ為ニ破ラレ、
テ後和ヲ請ヒ、一千八百一年二月九日、互子、ヲルレニ
盟ヒ、列應河左岸ノ地一帯、和蘭土ニ至ルマデ、盡ク佛
蘭西ニ割與フ、但英吉利ハ、未ダ和ヲ講セズ、三月廿八
日、兩齊西里亞王ト和シ、七月十五日、寶帥意太里ト、コ
ンコルダト王侯寶帥ト盟フ禮ス、ヲ行ヒ、八月廿四
日、ハル以ベイエレン國ト、別ニ盟誓ヲ為シ、全廿八日

夢霞樓藏

故ノ拔答盼亞義團ト和シ、九月廿九日葡萄牙ト多勒
多ト和議ヲ結ビ、十月初一日、大貌利丹尼ト和議ヲ謀
リ、全月初八日、俄羅斯ト和シ、其後都爾其ト和ヲ議ス、
是ニ於テ、十一月初九日、巴里斯ニ於テ、諸國講和偃武
ノ祭祀ヲ行フ、此レ第一位コンシユルノ、新ニ凱旋スル
ヲ祝スルナリ、此ヨリ前六月、阮日多ノ軍利アラズ、僅
ニ佛蘭西ニ屬シタル地モ、盡ク之ヲ敵ニ割與ヘ、既ニ
メ、殘兵僅ニ國ニ返ルヲ以テ、臣民深ク慚愧ス、此ニ至
テ、人々初テ阮日多ノ恥ヲ遺レタリ、
是ニ於テ、勃那把爾的ハ、諸學術ヲ隆興シ、交易ヲ盛大

地身國語補

夢霞樓藏

ニシ、軍艦ヲ修補シ、植民ヲ弘恢セント欲シ、殫精焦思、
專ラ其事ヲ務ム、一千八百二年一月、コンシユル親衛ノ
兵ヲ率テ「イラン」ニ赴キ、意太里亞國內人「シス、アル
ペイン」地名義團ヲ復ス、百官議メ、勃那把爾的ヲ以テ之
ガ總裁タラシム、三月、大貌利丹尼ト「アミイン」地名ニ會
メ和議ヲ定ム、勃那把爾的ハ、既ニ土地ヲ墾闢シ、人民
ヲ蕃殖シ、寶帥トコンコルダト上見ユヲ舉行テ國法
ヲ正シ、繼デ佛蘭西國內寺院ノ法制ヲ約シ、廢蕪セル
學校ヲ興シ、僧寺ノ祭祀ノ廢シタルヲ舉ゲ興シ、邦人
ハ他國ニ散在スル者ヲ處措スル新法ヲ建ル等ハ善

申具國語補

三

夢霞樓藏

政ヲ施スヲ以テ民心歸服シ、人々嘖々トメ、其德澤ノ深キヲ誦ス、故ヲ以テ五月八日、議政官、勃那把爾的ヲ冊メ、コシルノ位ニ居ラシメ、政ヲ行フ、更ニ十年ヲ期トス、勃那把爾的ハ、既ニ其請ヲ允シ、仍其位ヲ踐ミ、國政ヲ躬ニス、又國民太半、勃那把爾的ヲメ、畢生此位ニ、在ラシメント諮議シ、因テ先ヅ其功勳ヲ賞メ、工ル、レギラン、コギランハ、古ヘ羅馬ノ世ノ隊伍ノ名義、蓋シ功勳ヲ褒賞メ、別ニ親衛ノ兵ヲ賜フ、勃那把爾的ハ、新ニ此兵隊ヲ得テ、權勢増昌ニ、諸官人ヲ籠絡ス、是ニ於テ、衆民連署上表シテ、上ニ云ヘル如ク、勃那

把爾的ヲ一生コシルノ位ニ、在ラシメント請入ハ、月二日、政官會議ノ之ヲ准シ、遂ニ勃那把爾的ヲ其位ニ冊立シ、畢生其官ニ任スルヲ命ズ、勃那把爾的ガ指爵、今ハ則チ、諸政官ノ上ニ在テ、文武百官、皆己ガ指揮ニ、從ハザル者ナク、威權赫奕タリ、八月廿七日、百官咸ク忠蓋ニメ、他心ナク、コシルヲ奉戴スベキノ盟書ヲ上ル、是ニ於テ、義團ノ朝廷、無事ナルヲ以テ、勃那把爾的、心ヲ專ニメ、外國ヲ蕩平スル策ヲ施シ、八月廿六日、コシルバ島ヲ收テ、我共和義團ニ屬ス、赫勿婁亞ノ國民亂ヲ作ス、是ヨリ前、其國獨立シテ、屬スル所ナシ、此

ニ至テ、佛蘭西ニ内附シ、其命令ヲ聽久比蒙突ヲ并テ、佛蘭西ノ郡縣ト為ス、新ニ學校ノ制度ヲ定メ、士民ノ律令ヲ刊シ、街衢ヲ修メ、溝渠ヲ疏鑿ス、是ニ由テ、庶民ノ間曠素業ナキ者皆恒産ヲ得タリ、此諸仁政ヲ行フ間、英吉利ノ日刊朝報ヲ得タリ、曰ク、其國勃那把爾的ヲ疾ム心深クメ、謂ク、渠今和議ヲ講スル者ハ、姑ク其難ヲ弭メテ、大ニ戰艦ヲ修メ、海軍ノ力能ク我ニ敵スルニ足ルヲ須テ、其和盟ヲ破リ、以テ佛蘭西宿世ノ讐ヲ報セントスルナリト云ヘリ、然ラバ則チ英吉利ハ和議ニ狙安メ、我軍備全成ルヲ俟ツ心ナキト明カナ

リ、宜ク彼ニ先ダチ發スベシト、軍議ヲ定ム、是ニ於テ、兩國交書ヲ遺テ、非義ヲ責メ、和議遂ニ又破レ、一千八百三年、五月、英吉利ト戰ヲ交ユ、ハノーフルハ、兩國ノ間ニ首讖ス、勃那把爾的大將、モルチールヲ遣テ、之ヲ伐シメ、六月三日早ク既ニ其城ヲ圍ム、已ニメ和ヲ請ヒ、^リリンゲンノ地ニ盟フ、故ヲ以テ佛蘭西ハ、手ヲ下サズメ、ハノーフルヲ降シ、一切武器、銃礮、糧馬ヲ繳納セシム、英吉利ハ、既ニ前盟ヲ守ラズ、又佛蘭西ハ、ハノーフルヲ取ルヲ坐視シテ、之ヲ救フト能ハズ、佛蘭西ハ、英吉利ヲ征討スルニ、須ル所ノ兵備既ニ整ヒ、又黃

祁我ニ信從シテ、英吉利ヲ防禦スル便宜ヲ得タリ、是
ニ於テ「コンチ子ンタルステルス」歐邏巴大陸同
吉利ト交ヲ絶チ、且四邊諸港ニ、英吉利ヲ定メ、一千八
船及ビ貿易貨物ヲ通ゼサル法制ノ名、英吉利
百三年六月廿日、英吉利ノ百貨ヲ佛蘭西諸埔頭ニ運
入ルヲ嚴禁シ、其英吉利海岸ヲ掩撃スル軍艦ハ、盡ク
之ヲ「ハフレヨリ」ヲステンデニ、至ルマデノ諸港脚ニ
集メ、又其全隊軍艦ハ、「トウロニ」ニ屯聚ス、而メ其掩襲
ニ備タル軍艦モ皆未ダ戰鬥ヲ始メズ、此時英吉利ハ、
兵ヲ發メ、佛蘭西、黃祁ノ諸海港、及ビ「エルベ」空セル、
二河ノ諸地ヲ襲ヒ撃ツ、一千八百四年二月十五日、勃

夢霞樓藏

那把爾的ヲ弒シ、亂ヲ作サント謀ル者アリテ、其事發
覺ス、ヒセグ^レヒセ^レルゲス其首謀タリ、其餘逆徒四十
三人、皆前後捕ニ就ク、モレアウモ亦、其數中ニ在テ生
擒セララル、又此逆黨、佛蘭西人ノ避テ、外國ニ在ル者、及
ビ英國ノ使節黃祁ニ居ル「アゲンテン」巡哨官等ト、密
ニ書ヲ通メ、内外相應セント謀ルヲ告ル者アリ、是ニ
於テ急ニ「コウリンコウルト」ニ命シ、二隊ノ兵ヲ統領
セシメ、三月十四日十五日ノ夜、兵ヲ潛テ列應河ヲ涉
リ、其備ザルニ乗メ、バーテン部内ニ進ミ、ケール^レマ^レテ
ニヘイムヲ圍ミ、「エンダイーン」ノ赫督撫、西史外傳ニ
其小傳アリ、

北真國語本 卷四

衆心一揆、百議咸同。久本月二十日、又諭文ヲ下シ、盛儀ヲ具テ、那波列翁ヲ奉シテ、傳世皇帝ノ位ニ、即シメタルヲ國中ニ布告ス、
是ニ於テ、^レイクス、マールシカル^ク、^ク國內處々ニ分鎮ス、^云ノ官ニ任ジタル顯貴諸將、咸相會メ曰ク、今度ノ即位、恐クハ却テ後來ノ大旣ヲ惹出サント、先見ヲ述ベ、眉ヲ攢テ私言セリ、然ルニ帝ハ、新ニ大位ニ升リ、初テ天威ヲ振テ、下民ヲ懾服セント欲シ、逆黨ノ刑ヲ正ス、^レビセグ^トハ、是ヨリ先、四月六日、擒セラレテ、獄中ニ死シ、^レモレアウハ、^レ反逆ノ事ヲ知レ、^レ臣黨與セザルヲ以テ、

初ハ判ノ日久、多年獄中ニ幽囚スベシト、既ニメ恩典ヲ蒙リ、米里堅ニ遜^レシム、獨リセラル^レダ、其黨九人ト俱ニ、六月廿五日、誅ニ伏ス、其餘或ハ赦サレ、或ハ寺院ニ徙サレ、逆黨盡ク平久、勃那把爾的ハ、天子ノ位ニ即ク後、霸心昌熾シ、歐邏巴全洲ヲ奄有スル志アリ、此時佛國ハ、兵馬精練、向フ處必ス克チ、加フルニ、皇帝英武ニメ、他國皆望テ之ヲ懼ル、^レヲ以テ、國勢自ラ強大トナリ、近國ハ士氣懈惰、兵制弛弱シ、其餘諸國モ、率子皆太平ニ慣レ、苟且偷惰、恰モ睡漢ノ如ク、一人モ目ヲ張リ氣ヲ鼓シ、中原ニ抗衡スル志ヲ抱ク者ナシ、是ヲ

北真國語本 卷四

以テ、勃那把爾的、縦ニ隣近諸國ヲ劫略スルヲ得タ
 リト云、其年十二月二日、寶帥勃那把爾的ニ、皇帝ノ金
 冠ヲ巴里斯府ニ賜フ、大禮已ニ畢ル後、先ヅ意太里亞
 ヲ討テ、先ニ建タル義團ヲ滅ス、一千八百五年、三月十
 五日、國人勃那把爾的ヲ立テ、意太里亞王トナシ、其義
 子エウゲニス、ベアウハルナイ、スヲ小王ト為シ、皇妹
 エリサヲ、ピラムビノ地名布綸錫帥ニ、其夫名シラシ
 ヲ、カノ布綸帥布綸帥ハ必ス布綸錫帥ト呼フヲ、異ナリ
 ス、ニ封ズ、其熱努亞バルマビアセンサ及ビ古ノ比蒙
 突諸國ハ、皆佛蘭西ニ併ス、既ニメ軍ヲ班メテ、意太里

亞ヨリ返ル、適窩々所德禮畿、新ニ英吉利、俄羅斯ト合
 從スルヲ聽キ、急ニ兵ヲ興メ、黃祁ヲ伐ツ、九月廿五日
 廿六日、列應河ヲ濟リ、バーデン空ルテムベルグ以上
 外蕃譯史ニ、國ノト和ヲ結ブ、此時俾魯連地名上黃祁
 條ニ、參考スベシト、和ヲ結ブ、此時俾魯連地名上黃祁
 ヲ離テ、佛蘭西ニ附ク、既ニメ向フ所皆克テ、遂ニ兵ヲ
 窩々所德禮畿ニ進メ、一千八百五年十一月十三日、大
 將ト早ク既ニ勿能府ニ入ル、那波列翁陣ヲ進メ
 テ、スコンプンニ到ル、十二月二日、俄羅斯ノ兵ヲア
 ウステルンニ破ル、帝弗朗氏帝和ヲ講シ、兵ヲ止
 ント請フ、同廿六日、プレスビルグニ會シテ盟フ、是ニ

申與國成前

兵六

帝位ヲ去ル是ニ於テ古ヘヨリノ黃祁國制盡ク瓦解
ス、孛漏生ハ一旦佛蘭西ト和スト雖、其凌轢ニ堪ル
ヲ能ハズ、又兵ヲ舉テ佛蘭西ト、エト及ビアウルス多
トニ戰テ皆敗ラレ、其堅固ナル城寨數處皆守ルヲ能
ハズ、佛蘭西ニ降ル、沙瑣泥亞ハ、孛漏生トノ通路ヲ斷
クテ、相呼應メ救援スルヲ能ハズ、キハル鳩兒豐
ホル瑟督ト豐瑟督ト爵內ハ連戰皆敗レ、其國ヲ出奔ス、十月廿
七日、那波列翁兵ヲ引テベルレイニ入り、十一月初
一日、英吉利ヲ圍ミ攻ル軍令ヲ下シ、且彼ト交易シ、相
親交スルヲ嚴禁ス、佛蘭西帝、波羅尼亞ノ肢削セラレ

タルヲ憐ミ、其版圖ヲ故ニ復セシト約ス、元ト、俄羅斯
為ニ、削弱俄羅斯急ニ孛漏生ヲ救フ、一千八百六年十
二月廿六日、ト生スキニ戰フ、俄羅斯ノ兵敗レ走ル、明
年二月七日、トエイラウニ戰テ又大ニ敗北ス、都爾
其ノ兵、俄羅斯ヲ犯ス、是ヲ以テ、兵力分レテ益弱シ、加
之ヘイルスベルグトラストロレンカノ二地ノ軍利ナ
ク、トワリドランドノ戰モ亦敗ル、是ヲ以テ、俄羅斯、孛
漏生終ニ和ヲ佛蘭西ニ請ス、七月七日、ト孛ルシト
ニ盟ス、孛漏生ハ、兵卒ヲ亡フテ四百萬餘、且累萬ノ煙
土銀ヲ貢納スルヲ約シ、其銀兩齊足スルニ至マデ、堅

固ノ城寨數座ヲ佛蘭西ニ典當ス、是ニ於テ、佛蘭西皇
 帝ハ、赫督撫國「カウ」ノ一部ヲ、沙瑣尼亞王ニ賜
 ヒ、新王國「カウ」トス、レノ一部ヲ、ヒ「カウ」ニ
 賜ス、ヒ「カウ」ニハ、帝ノ同胞、是ヨリ前「カウ」テムベ
 ル「カウ」ノ王女ノ布綸錫帥ニ封ズル者ニ婚セリ
 是ニ於テ、那波列翁ハ、巴里斯ニ凱歸シ、一千八百七年
 十月廿七日、カウ「カウ」ノ地ニテ、竊ニ是班
 牙ト和睦シテ、葡萄牙ヲ救ハザラシメ、即千兵ヲ率テ
 葡萄牙ヲ伐テ、陽ニ是班牙ト、和スル狀ヲ為シ、却テ潛
 ニ兵ヲ發メ、之ヲ攻メ、ハト「カウ」取テ、佛蘭西ニ併

ス、大ニ嚴令メ、英吉利ノ互市ヲ禁ズ、此レ大害ヲ彼ニ
 生メ、困迫セシメントスルナリ、那波列翁ハ、既ニ諸國
 ヲ兼併メ、兵力日ニ彊大トナリ、勢ニ乘メ、猶近國ヲ合
 メ、佛蘭西國域ヲ、開大ニセント欲シ、一千八百八年、一
 月一日、其順從セルヲ時トメ、カウ「カウ」カステル「カウ」
 少シケンケン「カウ」ヲ收テ、佛國ニ併ス、是班牙ニ、内亂アリ、黨
 ヲ分テ相攻ム、佛蘭西帝、之ヲ利シ、遂ニ其國ヲ奪ヒ、皇
 弟那波里王ヨセフ「カウ」ヲ徙封メ、是班牙王トシ、帝義弟ニ
 之ト「カウ」遷メ、那波里ニ王タラシメ、大赫督撫地ベルグ
 ヲ、和蘭王ノ幼子ニ賜フ、俄羅斯帝、那波列翁ト、エル「カウ」

ルトノ地ニ會メ更ニ前盟ヲ申固ス、英吉利、佛蘭西ノ
是班牙ヲ奪テ見テ、之ヲ疾ミ、兵ヲ舉テ佛蘭西ヲ討ツ
十月廿九日、那波列翁其地ニ赴キ、英吉利ヲ破ル、窩々
斯德禮畿又兵ヲ舉テ來リ寇スルヲ聞キ、急ニ兵ヲ旋
メ、之ヲ拯テ、黃祁帝弗朗氏ハ、佛國ノ為ニ、數々敗ラル
ルヲ以テ、更ニ尚兵ヲ起メ、宿仇ヲ雪ガント欲シ、一千
八百九年、四月九日、戰書ヲ那波列翁ニ贈ル、窩々所德
禮畿ノ兵終ニ又敗ル、五月十二日、和ヲ請ヒ、勿能府ヲ
佛蘭西ニ附ス、七月十二日、兵ヲ撤シ、十月十四日、佛蘭
西、窩々所德禮畿、勿能ニ盟ヒ、更ニ數州ヲ割テ、佛蘭西

ニ與ハ、且鉅萬ノ煙土銀ヲ獻貢ス、那波列翁ノ元妃、ヨ
セ子、子ナシ、那波列翁之ヲ廢セント欲ス、一千八百
九年、十二月十六日、遂ニ之ヲ廢ス、初メ那波列翁、マリ
ア、口ヲセテ、窩々所德禮畿ノ、亞鴉爾都赫督其爵ハ
ニ全シ、但婦人ノ官ハ、ニ封ス、是ニ至テ立テ、繼妃ト
語尾ヲ異ニスルノミ、ニ封ス、是ニ至テ立テ、繼妃ト
ス、此際、又意太里亞小王ヲ、ホルスト、プリマー第一
督位ヨリ陞シテ、フランキホルト地名黃祁ノ世傳赫
督撫トナス、ハノール中央ニ在リニ合メ、一
州トナス、七月初一日、和蘭王ヲ廢ス、居ル一二日ニ
メ、又之ヲ佛蘭西ニ合ス、又ワルムセルラント、及ビ

ムス空セル、エルベ、三河口邊ノ、列應義團諸地、ハンセ
一府ヲルテンブルク、大赫督撫領ベルグノ一部、及ビ
空ストル、レン等、諸地ヲ割テ、佛蘭西ニ并ス。
是ニ於テ、那波列翁ガ威勢、已ニ其隆盛ヲ極メ、歐邏巴
ヲ蠶食メ、大半皆號令ニ從ス。但、是班牙トノ戰、未ダ終
ラザルノミ、而メ英吉利モ、未ダ全勝ノ利ヲ收ムル
能ハズ、其俄羅斯モ、亦其心測ル可カラズ、一千八百十
一年、俄羅斯、雪際亞、再ビ兵ヲ舉テ、佛蘭西ヲ伐シ、佛蘭
西大ニ兵ヲ備テ、之ヲ防ク、雪際亞ノ兵、速ニ黃祁ノ數
州ヲ下ス。但、亨漏生ノ諸城寨、及ビ「ダンチ」ハ尚、佛蘭

西ニ屬ス、黃祁、波羅尼亞ノ地方ニハ、諸國ノ軍勢雲集
シ、那波列翁ハ、大轟下ニ在テ、俄羅斯ト戰ントス、一千
八百十二年五月九日、那波列翁ハ、聖格碌德ヲ發シ、六
月廿四日、廿五日、其軍コイノシ河ヲ濟リ、九月十五日、
莫斯科窪ニ兵ヲ進ム、俄羅斯火ヲ舉テ、府城ヲ燒ク、那
波列翁、罷弊シタル兵ヲ莫斯科窪ニ頓シ、冬月ヲ涉リ、
春ノ來ヲ待ント欲ス、然ルニ今、其府城盡ク燒夷セル
ヲ以テ、兵馬ヲ休息スルニ地ナク、進退窘迫シ、十月十
七日、已ムコトヲ得ズ、兵ヲ退ク、大軍ノ兵士、凍死相望ミ、
生還ル者數千ニ過キズ、那波列翁、已ニ大兵ヲ挫折シ、

又「マ」トイフ者亂ヲ作シ佛蘭西帝位ヲ傾覆セン
ト謀ル急報ヲ得テ急ニ「ス」モログノニ於テ納波里王
ヲメ、已ニ代テ殘兵ヲ指揮セシメ、十二月十八日、自ラ
巴里斯ニ返ル、是班牙ノ兵亂熾ニメ、亦佛蘭西ノ為ニ、
甚ダ利アラズ、初メ寶帥パラス、是班牙ノ動亂ヲ平ケント欲
シ、兩國ノ中ニ居テ之ヲ和解ス、其言フ所、那波列翁ノ
為ニ不便ナルヲ以テ聽カレズ、寶帥、那波列翁ヲ罰メ、
法縁ヲ斷シト欲ス、那波列翁怒テ之ヲ擒ヘ、巴里斯ニ
送リテ幽囚ス、是ニ至テ、是班牙ノ人心ヲ收ント欲シ、
一千八百十三年一月廿八日、ラシタイ子ブレアウノ

地ニテ、寶帥ノ囚ヲ釋シテ舊盟ヲ尋キ、其盟ヲ名テ十
全完成コンコルダトト上ニ詳ナリト名テ、以テ新ニ其亂
ヲ戡靖ス、三月廿七日、李漏生、戰書ヲ那波列翁ニ贈ル、
那波列翁進テ、黃祁ノ中央ニ次ス、五月二日、ウツニ
戰ヒ、二十日、廿一日、ハツニ空ルセニ名ニ地ノ、拔隊龍
隊伍ト戰テ、皆之ニ克チ、轉メシレシアニ攻入ル、ダホ
ウト名ハ、ハムビルクノ地ヲ復シ、六月四日、兵ヲ止ル
ヲ約ス、窩々所德禮畿、兩國ノ兵ヲ和セント欲シ、ラ
ーグノ地ニ於テ和議ヲ謀ル、和議成ラズ、八月十日、窩
々所德禮畿、又反シ戰書ヲ佛蘭西ニ贈ル、遂ニ「テ」レス

デレニ戰フ、窩々所德禮畿ノ兵戰敗ル、モレアウ重創
ヲ蒙ル、此ヲ那波列翁ガ最モ後ノ勝トス、八月廿六日、
カイスバグニ戰フ、武略舍爾西史外傳見勇戰シテ、佛蘭
西ノ軍ヲ破リ、全軍敗走ス、廿九日、トヲゴガ一軍皆
覆ス、雪際亞太子、兵ヲ率テ黃祁ニ入ル、九月六日、那波
列翁、デレスデレノ兵ヲ撤メ、イプシフニ入ル、是レ
敵ニ、佛蘭西ノ歸路ヲ斷ル、ヲ懼ルレバナリ、佛蘭西
ノ軍、戰フ毎ニ利ナク、十六日、兩軍交綏シ、十八日、全軍
又敗績シ、十九日、其兵過半、列應河ヲ濟テ、邵ク、ハナウ
ノ大敗ノ後、遂ニ聖格球德ニ返ル、一千八百十三年、十

二月初一日、同盟諸國、那波列翁ヲ誅討ハ、ランキヲル
トニ在リテ、書ヲ那波列翁ニ遺ル、那波列翁、書ヲ披覽
スレ、厩、悛ル心ナシ、然トモ同盟諸國ノ兵、已ニ列應河
ヲ濟テ來迫リ、英吉利ノ兵將、空ルリ、ングトニハ、北勒
弱何山ヲ踰テ、カロン子ノ野ニ陣ス、那波列翁ハ是ニ
至テ、ラレンシアニ幽囚セル、是班牙王ヘルチナシト
ヲ赦シテ和好ヲ結ヒ、因テ同盟諸國ニ和議ヲ謀リ、軍
ヲ退クルヲ請ハ、同盟諸國尚兵ヲ退クバク、那波
列翁ガ威力、此時猶大國ヲ保有メ、富貴ヲ失ハサルニ
足レリ、然ルニ彼ガ策此ニ出テズ、一千八百十四年一

月廿五日、巴里斯府ヲ去リテ、竟ニ自ラ零落ヲ招クニ至レリ、爾後少ク戦捷トイヘル、録スルニ足ラズ、一千八百十四年二月初一日、プリーン子ニ於テ、又武略舍爾ガ為ニ破ラル、勢已ニ是ニ至ルトイヘル、和ヲ請ハ、猶敵ヲ退クベシ、然ルニ彼猶己ガ驍勇ヲ恃ミ、一時ノ小利ヲ見テ、恢復ヲ謀シ、トテ僥倖シ、自ラ省ルコトヲ知ラズ、三月三十日、同盟諸國勢ヲ合メ、其全軍ヲ破テ盡ク之ヲ降シ、午後、武略舍爾モントマルトレヲ取り、俄羅斯帝、宇漏生王、及ヒ同盟諸侯ノ前軍、皆進テ巴里斯ニ入テ血戦シ、三十一日、城兵和ヲ請ヒ門ヲ開テ降ル、

敵兵巴里斯ヲ取ル寸、那波列翁逃テ、ボシタイ子ブレアウニ至ル、四月二日、同盟諸國、及ビ佛蘭西、民庶頭領、皆會議シテ、那波列翁ヲ廢シ、ボウルボン家ノ宗室ヲ立テ、再ヒ佛蘭西王ト為ス、羅德勿吉五月十一日、那波列翁ヲメ、大位ヲ避シムル、表文ヲ遺ル、那波列翁之ヲ准シ、位ヲ避ル、詔ヲ書シ、自ラ姓名ヲ署人之ヲ還ス、是ニ由テ、エルバ島ヲ與ヘテ、此ニ君臨セシム、廿八日、シント、ラヘアウヨリ、舟ニ乗メ、エルバ島ニ到ル、此地ハ、フレイス港ノ近傍ニ在リ、是ヨリ前十五年、那波列翁、既日多ヨリ、凱旋セシ寸、フレイス港ヨリ、上陸シテ、

佛國ニ返ル威勢烜赫、人皆望デ驚歎セリ、今ハ則チ帝位ヲ避テ、孤島ニ入り、復タ此地ヲ過ク、盛衰起伏ノ狀殊ニ酸鼻スベシ、那波列翁、エルハ島ニ在テ、佛蘭西ノ人民、新政ニ服セズ、士庶及ビ、有土名族、皆那波列翁ヲ懷フ心深ク、且勿能ノ會盟ノ後、諸國平治メ、武ヲ偃スルノ告文ヲ得テ、窃ニ喜ビ、又恢復ヲ謀ル志アリ、一千八百十五年、二月廿六日、一千百人ヲ率テ、アムキ等船ニ駕シ、三月初一日、フレリスニマ、地中海ニ面スル港ノ近傍、カン子スニ上陸シ、急ニ内地ニ進發ス、グレングレノ途ニメ、ラベドエーレガ統帥セル、一旅ノ兵馬

チ遇フ、初ハ那波列翁ヲ遮リ、伐チ、已ニメ、戈ヲ倒ニメ、之ヲ援久、其晚、グレレンブレ府ニ抵リ、十日、イフニニ進ミ入ル、羅德勿吉十八世王、那波列翁ガ報ヲ聞キ、速ニ出奔ス、是ヲ以テ、一礮彈ヲモ費サズメ、廿日、巴里斯ヲ取ル

勿能ノ會ニ臨タル帝王、公侯、此駭異スベキ、一事ノ告文ヲ得テ、新ニ令ヲ發メ、兵馬ヲ徵シ、五月下流、進テ討征セントス、此時、那波列翁ガ兵卒、次第ニ增多シ、六月十三日、サムブレ河ヲ踰テ、空ルリングトニ、武略舍爾、二大將ガ、統帥セル、李漏生、英吉利、涅埵爾蘭、匈ハ陣ヲ

撃ントス、十六日「ブレウ」地ニ「ク子」地ニ、二「テ」二、一「兩軍血
戰ス、那波列翁ガ兵利アリ、此時其將「子エ」地ニ左翼ノ兵
ヲ率テ「多トレブラ」地ニ在テ「ブ」地ニ「スル」地ニ、一「途ヲ支
テ健闘ス、字漏生ノ兵ハ、佛蘭西ノ兵鋒ヲ避ケテ陣ヲ
退ク、英吉利、涅埵爾蘭甸ノ軍モ、同ク「ソイグ子」地ニ林ノ
側ニ卻キ曠野ニ陣ス、初ノ大將、武略舍爾二國ニ約シ、
此地ニテ三國兵ヲ合シ、那波列翁ガ掩撃スルヲ待テ、
之ヲ討ント謀ルヲ以テ、故ニ兵ヲ退クルナリ、那波列
翁ハ、英國ノ後隊、獨リ「ブ」地ニ「スル」地ニノ道ヲ支フト謂ヒ、必
死ノ勢ヲ率テ、「ワ」地ニ「トル」地ニ「ロ」地ニノ高處ニ陣スル、一「空」地ニリ

ングトニガ、勇悍ノ兵ヲ撃ツ、大蒲里丹尼亞ノ餘隊、涅
埵爾蘭甸兵ヲ合メ大ニ戰フ、涅埵爾蘭甸ノ兵ハ、當時
ノ太子微爾敏自ラ將トメ師ニ臨ム、日巳ニ昏ルニ及
テ、大將武略舍爾兵ヲ反メ來接ケ、佛蘭西ノ右翼ヲ擊
ツ、是ニ於テ、戰鬪極テ劇ク、而メ涅埵爾蘭甸ノ太子ハ、
殊死敵ニ中リ、驍勇比ナシ、是ニ於テ、敵兵盡ク敗衄シ、
巴里斯ニ向テ潰走ス、升一日、那波列翁巴里斯ニ卻ク、
次日民庶會合シ、大將ソリク_クモ、亦那波列翁ヲ諭
メ、大位ヲ其子ニ讓ラシム、是ニ於テ、那波列翁再ビ其
位ヲ去ル、然ドモ此策成ラズ、終ニ國祚ヲ永フスル

能ハズ、那波列翁ハ、名地ニ流落シ、名地ニコレセ
 ル止ニ赴キ、海ニ航ノ米里堅ニ到ラントス、英國ノ巡
 哨船、原名、ゴロイセル、十字ノ義、海其去路ヲ遮ル、七
 月十四日、英吉利ノ甲必丹、名地ニイトランドニ降ル、次日
 べルレロホント名ル船ニ徒シテ、英吉利ニ輸シ、生擒
 シテ聖意勒納島ニ流竄シ、名地ニロングウールド意勒納島ノ地ニ
 幽シ、英吉利ノ兵士嚴ニ呵衛ス、然ドモ一身康彊、病ム
 所ナシ、一千八百廿一年五月五日、病デ没ス、壽ヲ享ル
 一五十一歳又九箇月、是ニ於テ、遺命ニ遵テ島内某溪
 ニ葬ル、其墓碣ニハ、一兵將ニ諡ルベキ、剛勇等ノ字面

ヲ鐫ス、

那波列翁没メ二十年ノ後、即チ一千八百四十年皇帝ノ禮ヲ以
 テ、佛蘭西本都巴里斯ノ老廢軍卒院ニボテル、デル、イ内
 ニ歸葬ス、初メ佛蘭西民庶、訛言シテ曰ク、一千八百四
 十年ニ丁テ災異アリト、人心之ガ為ニ、洵々トシテ安
 カラズ、那波列翁ヲ慕ヒ、今王ノ政ニ心服スル者少シ、
 是ニ於テ、議政大臣會議メ、那波列翁ノ靈柩ヲ、聖意勒
 納島ヨリ、巴里斯ニ搬運シ、皇帝ノ禮ヲ用テ厚ク葬リ、
 以テ、民心ヲ綏服セント請フ、乃チ使ヲ英吉利ニ遣リ、
 歸葬ヲ准スヲ請ヒ、王子ヨインズル名地ニ布綸帥名

ハ、ロヲス、ヲ少ピニ命メテ、ヘルレ、船ノ總督夕ラ
 シメ、帝ノ靈柩ヲ海運メ、本國ニ返ラシム、七月七日、號ト
 ウロシヲ發シ、十月八日意勒那島ニ到リ、十五日ノ夜、
 葬宅ヲ發掘ス、英、佛、二國ノ官コミサリス、監察之ニ臨ム、
 黎明棺ヲ啓ク、其屍二十年ヲ經トイヘ、少モ腐壞セ
 ズ、十六日午後、柩車溪内ヲ發ス、一聲煩ヲ打放メ、暗號
 ヲ為ス、既ニ船ニ到レバ、日已ニ晚ル、携ル所ノ僧侶、諷
 經メ、靈柩ヲ守衛ス、
 十六日、船内ニ靈柩ヲ供養スル禮ヲ行フ、十七日船ヲ
 發ス、十一月三十日、セルボウルクノ港ニ著ク、遂ニ靈

柩ヲ蒸氣船ニ徙シ、十二月十五日巴里斯ニ入ル、此日
 靈柩ヲ警衛スル官員、儀仗極テ華整、諸隊軍負、各百般
 兵器ヲ操ル、其數十二萬五千人、靈柩ノ過ル所、道上織
 沙ヲ撒布ス、觀者道側ニ填咽シ、其數十萬許、或ハ多金
 ヲ出メ、空屋ヲ僦シ、窓戶ヲ借ルニ至ル、
 葬儀ノ鹵簿モ、極メテ嚴整、老廢軍卒大院ニ向テ進ム、
 佛蘭西王口デ空一キ、ヒルプス、群臣ヲ從ヘ出テ靈柩
 ヲ迎フ、步兵、騎兵、樂部ヲ分テ、四十五隊ト為ス、アヤシ
 ヲ波列翁ガ生國ノ使臣モ、亦其數内ニ在リ、樂官二百人、挽
 歌ヲ奏ス、既ニ寺内ニ入ルニ及テ、亞鴉爾都俾斯坡第一

等僧俾斯玻十二員皆紫衣ヲ穿テ、レイキヂインス止
引尊供ヲ行フ、樂負五百名、歌員男女百五十名、迭ニ挽
養ノ類ヲ奏ス、

柅車ノ制ハ極テ華整長、和蘭ノ十工也、一工也、三尺二寸九分
二、濶五エル、高十一エル、四大車輪上ニ架ス、其四輪ハ
皆金ヲ鍍ス、車ノ前端ニ半規狀ノ坎凹アリ、熱弩亞人
一隊ヲ備ヘ、加列兒^{カレール}、堙^{コル}、盧^ル、的^テ、帝ノ名、冠ヲ捧ク、四傍
ニ立テ、手ニ刺叭ヲ操ル者、幾員、車箱ノ四面上際ニ帝
名ノ瘦詞ヲ掲ゲ、老利兒^{ラウリール}杖ヲ用テ、之ヲ圍ム、此諸物ハ
皆金ヲ鍍ス、靈柩長五エル、高二エル、四周ニ紫色ノ天

鷲絨幔ヲ掛ク、幔上ニ、N字、那波列翁ノ、蜜蜂、及ビ帝ノ
兵器ヲ飾ル、車箱上際ニハ、四面ニ金甲ヲ穿タル女人
ノ像、各六人ヲ設ク、此像モ亦鍍金大サ大人ノ如シ、上
ニ巨大ナル一叢ノ稍ヲ置ク、帝柩ハ、箱内ニ在リ、上ニ
王杖、帝冠、諸武器ヲ排列ス、此皆那波列翁當時歐羅巴
ヲ鞭撻シ、帝域ニ君臨セシ寸用ル所ノ寶什ナリ、外擲
ハ、高十五エル許、下ヨリ上ニ至テ、黄金、天鷲絨ヲ裝ヒ、
喪車ハ十六ノ馬匹ニ駕ス、每四其首ヲ駢ヘ、每匹身上
錦繡ヲ覆ヒ、頭上陰部ハ、白鳥毛ヲ粧フ、馬絆ハ金索ヲ
用ヒ、御者手ニ金繩ヲ執ル、其衣服、帝宮ノ服制ヲ用フ、

喪車ノ四面ハ、靈柩ヲ舩ニテ、運致セル舩隊五百名之ヲ警衛ス、ヨイニズルレノ布綸帥之ニ將夕リ、其後ニ當時帝ニ給仕セル士卒千四五百人、帝國當時ノ陣装ヲ為テ隨ス、

喪車既ニ、本院内ニ入レバ、土團兵隊、其餘諸隊ノ先導スル者、皆劍銃ヲ撃テ、フレセンテトルノ禮ヲ行フ、銃劍ヲ使用スル人、尊貴ヲ見レバ、此禮ヲ行フ、院内ノ兵、皆劍ヲ肩ニテ、跪拜ス、俾斯坡、諷經畢レバ、土團ノ親衛、リニ一隊兵、通グ三十六員、靈柩ヲ擔テ、殿堂ニ進ム、那波列翁ノ佩劍ハ、天鷲絨枕上ニ載セ、ゼ子ラール官アタリ六人名之ヲ捧テ、

コールシカルク官ソウルト人ニ交ス、ソウルト之ヲ佛蘭西王ニ上ル、王自ラゼ子ラールベルトラントニ命メ、靈柩上ニ措カシメ、又ゼ子ラールゴウルゴウトヲ召メ、帝帽ヲ柩上ニ措シムルヲ前儀ノ如シ、此儀了テ、擔夫又靈柩ヲ荷ヒ、徐歩ノ穹窿正殿ニ入ル、殿高十五エル許、盡ク黄金及ビ、各色天鷲絨ニ、紫鑲セル物ヲ用テ莊飾ス、ミニスト官各部君長、皆椅子ニ坐ス、椅子ハ其飾、各華靡ヲ極ム、帝墓ハ兩翅ヲ張タル、鑲金靈鷲ヲ以テ之ヲ蓋ス、鷲大三エル許、穹窿殿内ハ、燈燭ヲ一行ニ列シ、蠟燭青焰ヲ吐テ、四壁ニ照映ス、別ニ六十

箇銀燈ヲ掲ケ尊嚴光明ヲ輝カス殿内ノ柱ゴトニ、槍
掠セル、兵器寶什ヲ排シ、諸功臣ノ功業記ヲ附ク、盛儀
已ニ全ク畢テ、王駕ハ八乘ヲ備ヘ、無數ノ步騎、前後ヲ
擁メ、王宮ニ返ル、

坤輿圖識補卷四

大尾

書坤輿圖識補後

昔者陸龜蒙卧病著書李長吉苦吟吐血其所
業雖異至篤志則一也津山箕作玉海承乃父
業竭力洋籍有年于茲客歲著輿地全圖坤輿
圖識大行于世既而得肺病患咯血然而汲汲
著書毫不介意有時暴發咯血汚其稿紙猶隱
几握管不止雖乃父戒之故舊諫之特為首肯
而已書成題曰坤輿圖識補嗚呼玉海何人言
其勞則譯左行說字内言其病則傷肺腸吐鮮
血若夫陸李二子置而不論也方今外夷伺隙

四邊有警我西肥最當要衝而淺陋如余束縛
一官視不及睫心竊慙焉玉海仕無海之藩居
無患之職而其焦思深慮如此此書也洵余輩
之鍼砭而亦天下之藥石也抑玉海鑿也知鑿
國而不知醫身無愧古所謂上鑿鑿亦大哉嗟
服之餘書以與之

弘化丙午九月

西肥古賀坤識

江都 渡邊執書

美作 箕作省吾著

弘化四年丁未十一月

岡田屋嘉 七

山城屋佐兵衛

須原屋茂兵衛

和泉屋善兵衛

須原屋伊 八

發行

